

救 急 科

1. 救急科の紹介

愛媛大学医学部附属病院救急科は、1995年に訓令化された愛媛大学医学部救急医学講座を基盤としており、三次医療施設として救急外来における初期治療に引き続いて集中治療を行っています。2017年2月からはドクターヘリ基幹連携病院としてドクターヘリ事業を県立中央病院と分担して搭乗しています。各専門診療科と協力して治療にあたりますが、とくに下記の疾患では主担当で集中治療を行います。チーム制で治療を担当しており、On-Off にも配慮しています。もちろん、当直明けは帰宅可能です。

大学病院内の院内急変対応（Rapid Response System）も担っており、院内医療安全にも寄与し、必要時は継続して集中治療を行います。松山、今治など近隣の二次救急医療の診療・バックアップとして救急医療の支援をしています。

- 多発性外傷：治療の優先順位の決定、初期からの凝固線溶異常を意識して、PTD（preventable trauma death）の減少を目指す。四肢・骨盤外傷、胸腹部外傷、血管内治療にも積極的に関わっています。
- 重症敗血症・重症呼吸不全・多臓器障害：現疾患治療とともに、ショックやDICに対する治療、人工呼吸管理・CHDF、PMXなどの血液透析、膜型人工肺を用いた体外循環ECMO（Extracorporeal membrane oxygenation）による集学的治療により救命を目指す。

2. プログラムの目的と特徴

当科では、愛媛県内・県外の病院群で救急科専門医研修プログラムを提供し、研修者には視野の広い救急専門医、素晴らしい人格者へと成長するように指導していきます。

救急科以外の専門医取得に関して、より積極的に支援します。専門医獲得以降も各専門領域の技能獲得と維持とともに、救急医としてのレベルアップを重視します。期間中に当大学病院等で研修を行いながら愛媛大学大学院医学系研究科への社会人大学院進学を認めています。国内・国外・基礎研究・臨床研究を踏まえた幅広い視野の持てる救急医育成が可能です。Walk inの一次救急からER、三次救急、ドクター



【COVID-19では愛媛県内での重症患者を中心に治療を担い、人工呼吸管理・ECMO管理などを用いて、愛媛県内の多くの命を救ってきました】

- 特殊感染症：破傷風、壊死性筋膜炎等の軟部組織感染症に対するデブリードマン、経皮的ドレナージ、NPWT（Negative Pressure Wound Therapy）などにより救命率向上を目指す。
- 低体温療法：重症頭部外傷における低体温療法で長年培ってきたスキルを応用し、PCAS（Post-Cardiac Arrest Syndrome）に対して積極的に低体温療法を行い、神経蘇生、後遺症の軽減を目指す。
- JATEC、ICLS、災害対応訓練、献体を用いた外傷手術トレーニング、生体アニマルを用いた外傷手術トレーニング、多施設での症例検討会などを開催しOff the job trainingにも力を入れている。

ヘリ、災害医療、国内留学・海外視察など専門医プログラムに留まらない、専修医の夢や目標を一緒に考えていきます。

- 日本救急医学会がダブルボードの取得に柔軟な考えを持っており、【救急科+他の専門医】に理解を示しています。救急科プログラムで救急科専門医を取得、その後他の専門医プログラムに属してダブルボード取得することが可能です。

愛媛県地域枠にもこの制度を取り入れました。魅力的な選択肢（詳細は救急医学佐藤までご連絡をください）の一つになるかと思います。

3. 経験目標

専門研修1年次（愛媛大学医学部附属病院12か月）

- 研修到達目標：救急初療を理解し、時間的センスを身につける。また救急基本手技を習得し、救急医としての基礎を確立する。大学病院において横断的な集学的治療を研修する。
- 研修内容：指導医とともに治療を担当する。個々の症例に対してじっくりと考え、理解する。大学病院内で救急医療に関連する他の専門領域の勉強、ドクターヘリ・ドクターカーといったプレホスピタルケアの研修が可能である。大学病院から救急輪番の医療支援を担い、一次から三次救急・集中治療の研修が可能である。

専門研修2年次例（愛媛県立中央病院、愛媛県立新居浜病院、松山市民病院、広島県立病院、福井県立病院、兵庫県立加古

川医療センター、京都第二赤十字病院、京都大学・横浜市立大学病院、日本医科大学高度救命救急センターなど連携病院あるいは救急医療に関連する他科研修から合計12か月選択可能）

- 研修到達目標：救命救急センター、救急に関連する他科での診療研修において知識、技術を向上させる。
- 研修内容：数多くの症例を担当することによって、知識、技術を確立させる。研修者の希望に合わせ一次～三次救急医療・災害医療・ドクターカー・ヘリといったプレホスピタルケア・救急に関連する他科の研修が可能である。ER診療、ドクヘリ・プレホスピタル、重症外傷診療へのチーム医療、アカデミックな大学病院など多彩なラインナップから専攻医にあった研修先の選定

専門研修3年次例（愛媛大学医学部附属病院での研修6か月を含み、あるいは救急医療に関連する他科研修など、希望者には海外での研修1か月程度を考慮する）

- 研修到達目標：救命救急センターにおいて重症急性病態の初療と集学的治療のマネジメント、地域救急医療の研修などを行い、積極的に学会への発表・参加も行い幅広い視野を持った研修を行う。（ドクターヘリや当直などが独り立ちできるレベルへ到達）
- 研修内容：救急初療、集学的治療においてリーダーとして

治療を担当する。診療において後進指導を行う。また他職種と連携をとり、病棟管理を行う。地域のメディカルコントロールに参加する。国内・国外の学会発表、論文作成。
* E R研修においては、愛媛大学医学部附属病院在籍中に、松山赤十字病院救急部、松山市民病院、済生会松山病院などに出向して研修することが可能です。救急輪番の支援という形でも愛媛県内の病院と連携をとっています。他科研修については、愛媛大学医学部附属病院において救急科と連携して可能です。

4. 指導医と指導体制

教授	佐藤 格夫	救急、集中治療
教授	竹葉 淳	救急、整形外科
准教授	菊池 聡	救急、外科
助教	松本 紘典	救急、外科

助教	大下 宗亮	医療安全、IVR
助教	安念 優	救急、IVR
助教	向井 直樹	救急、外科
助教	福山 史朗	救急

5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
8:30-9:15	カンファレンス				
AM PM	ICUケア 初療対応 院内急変対応	ドクヘリ	ICUケア 初療対応 院内急変対応	ドクヘリ	ICUケア 初療対応 院内急変対応
16:30-17:15	当直医への申し送りカンファレンス				

6. 新専門研修プログラム

愛媛大学大学院医学系研究科 救急医学
愛媛大学大学院医学系研究科 救急航空医療学講座

若者への様々なチャンスを作り出す
若者の人としての成長を考える

救急医学・救急医療は幅が広い。

- 若者が大切だと思うアイデアがあれば、それを作り上げていく支援をする
- プログラムは若者と社会のニーズに合わせる
⇒ 常に新しいプログラム構成を考える
- 愛媛県以外の医療、社会を知ることが、愛媛県のためである。
積極的に留学を支援する



医師としての成長・人としての成長
⇒ 専門医取得後の方が大切である

救急科専門医取得のバターン

最短取得型

Subspecialty取得型

救急科専門医プログラム 最短3年間

救急医療では色々な選択肢がある

- ・ドクヘリ・プレホスピタル
- ・重症傷病者診療・集中治療
- ・外傷・敗血症
- ・Subspecialty手術・IVR
- ・整形外科系・外科系・脳外科系など
- ・ER 総合診療 内科系救急 小児科
- ・災害医療
- ・基礎研究／臨床研究
- ・国内留学／海外留学

救急科専門医プログラム

途中、他の専門医プログラム 専門医取得 通常3年間

救急科専門医プログラム 続きを継続

救急科専門医プログラム

他の専門医プログラム 専門医取得 通常3年間

日本救急医学会が、多彩な研修やダブルボード取得の柔軟な考えを提唱

*愛媛大学地域枠ダブルボード取得が可能になりました

(カリキュラム制度／救急科3年＋外科2年などでダブルボード取得可能など柔軟な制度が認可され始めました)

7. 専門研修修了後について

愛媛をよくするには、他の地域のことを知ることが重要であり、積極的に国内・国外への留学を支援します。15年先

を見越した各個人の希望を加味したオーダーメードな研修を考えます。

8. 専門研修の問い合わせ先および提出先

- 募集定員：5名／年
- 応募書類：申請書、履歴書、医師免許証の写し
- 応募期間：2024年9月末までにメールをお願いします。

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 愛媛大学医学部救急医学教室

救急科専門医研修プログラム委員会 佐藤格夫 宛

TEL：089-960-5722 FAX：089-960-5714 E-mail：drnori@m.ehime-u.ac.jp

